

会議録（要旨）

名 称	第4回 紀の川市協働によるまちづくりの指針作成懇話会
開催日時	平成22年2月19日（金）午前9時30分～午前11時
<p>1. 会 場 打田生涯学習センター視聴覚室1・2</p> <p>2. 参加者 懇話会委員10名 事務局4名 作業部会員2名 計16名</p> <p>3. 内 容</p> <p>（1）開会 事務局（竹中次長）</p> <p>おはようございます。定刻となりましたので、ただいまから、第4回紀の川市協働によるまちづくりの指針作成懇話会を開催いたします。お忙しいなか、ご出席をいただきましてありがとうございます。本日の会議では指針案の最終協議をおこない、紀の川市協働によるまちづくりの指針案を確定したいと考えています。まずは、中村市長からお礼のごあいさつを申し上げます。</p> <p>（2）市長挨拶</p> <p>おはようございます。昨年10月から何回となくお集まりをいただき、ご協議をいただきまして本当にありがとうございます。紀の川市も合併をして5年目を迎えています。財政状況の非常に厳しいなか、50年間続いた旧町の歴史、伝統、文化を守っていかねばなりません。また、いろいろな違いの調整を図りながら進めていかねばなりません。行政だけではなく、各地域や、また、市民のみなさま方にお助けをいただきながら進めていくことが、協働のまちづくりになると思っています。みなさま方にご検討いただいたことを参考としながら、安全・安心な紀の川市にしていきたいと思っております。今日までご苦勞いただきましたみなさま方に心から感謝を申し上げます。冒頭のお礼のごあいさつとさせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。</p> <p>（3）会長挨拶</p> <p>みなさん、おはようございます。第4回紀の川市協働によるまちづくりの指針作成懇話会となりました。この4回の間、熱心なご議論をいただきまして、本当に嬉しく思います。こういった作成委員会では意見がないと、事務局がつくったのをだして終わり、みたいなかたちが非常に多いですが、この懇話会は、みなさんがきちっと指針に目を通して、意見をみんなで指針に反映し、作業部会に持ち帰るというやりとりを繰り返しながら、協働によるまちづくりの指針案を作成できました。</p> <p>この第4回がまとめになります。指針案にお目通しをいただき、ご意見をいただければと思います。それから、次の年度、その次の年度で協働のまちづくりを実現していくために、どういことができるのか、みなさんからご意見をいただく時間を設けています。活発なご意見をいただければと思います。</p> <p>（4）議題</p> <p>・金川会長</p> <p>では議題の1、第3回懇話会の会議録の説明を事務局からお願いします。</p> <p>・事務局より第3回懇話会会議録（要旨）について説明、修正があれば事務局まで連絡をお願いします。</p> <p>・金川会長</p> <p>続きまして議題の2と3に入ります、パブリックコメントの実施結果と指針（案）について</p>	

事務局より説明をお願いします。

- ・事務局より資料（指針案）をもとに説明

- ・金川会長

この部分で確認をしておきたいことやご意見等はございませんか。最後なので、大幅な修正とはいきませんが、気になるところがあれば、ぜひ、ご意見をお願いしたいと思います。

- ・梁瀬委員

まえがきで紀の川市が「果物王国」とPRしていますが、紀の川市の果物が日本一を誇っているということは全国で受け入れられているのですか。

- ・金川会長

私個人としては、紀の川市は和歌山県内でいうと果物でトップクラスだと思います。

- ・梁瀬委員

そういう誇りをもてるのであれば堂々とPRしていいですね。

- ・事務局（東部長）

ぶるぶる娘に6人のキャラクターがありますように、かき、いちご、はっさく、いちじく、キウイフルーツ、ももの販売額が、西日本の市ではだいたいトップです。170から180億円程度の売り上げがあります。はっさくが1位、いちじくが1位、桃が2位、かきが3位、キウイが4位と全国的にかなり上位をめています。東京圏、大阪圏を訪問し、市長がトップセールスを行い、果物王国とPRしています。

- ・梁瀬委員

市民が誇りをもって、紀の川市は果物王国といえる、すさみ町がイノブータン王国といえるように誇りをもてると思います。

- ・金川会長

他にお気づきになった点はございますか。それでは、最終案をご了承いただいたということでよろしいでしょうか。

- ・各委員

はい。

- ・金川会長

ありがとうございます。では、議題の3まで終了いたしました。次に、議題の4です。懇話会にかかわっていただいた委員のみなさんに、これから協働のまちづくりを進めるために、どうやっていけばよいかというご意見を、それぞれの立場からぜひいただきたいと思います。

- ・島委員

まずは、本当に素晴らしい指針ができたと思います。たくさんの方が指針づくりにかかわった成果だと思います。私も、他の市町村のみなさんに紀の川市の指針はちょっと違うと、職員のみなさんも汗をかき、知恵をしぼり、そこに市民の声がきちっと反映されてるよってPRしていますが、それに間違いなかったという気持ちでいっぱいです。それだけに、本当に絵に描いた餅にしない、やっぱり鍵をにぎるのは、指針の「
。紀の川市が取り組む環境づくり」

にあげている「仕組みと計画」だと思います。庁内のどの部署がこの指針の具体化を担当するのが、ひとつ大きなポイントになると思います。指針をつくる段階で市民の、職員の視点が反映されたものとなっていますので、計画をつくり推進するという、推進委員会のようなかたちで、外部の方の意見を反映する。そして、実際に協働にかかわる地域の団体も一緒になって計画をつくり進める。これが一番、具体的に実のあるものになる。ポイントはそのふたつだと思います。

・中坂委員

私も、りっぱな指針ができて、いいなあと思います。これにどう魂を入れていくのが一番問題な点だと当初から思っています。指針の「 . 紀の川市が取り組む環境づくり」が一番のポイントになると思います。官民の意識改革をどうもっていくか、意識改革が進めば、紀の川市は、和歌山県一の市、全国一の市になると思います。まちづくり会議はいいと思います。絶対にやらなければならない。早いほうがいいと思います。5つの町が合併してひとつの市になってきた今が、一番いいチャンスだと思います。

・中川委員

みなさんの意見が、絵に描いた餅に終わらないように、計画をたてて行程をおうべきと思います。市民や各団体の意見を取り入れる場づくりを、仕組みづくりに入れて、市民、市、議会が足並みを揃えた中で成熟していくようなまちづくりを求めていきたい。担い手は地域振興課のような部署であると思います。今まで、作業部会と懇話会、それから本部と別々に活動していたものを一緒にお膳立て、ひとつの料理で盛り上げていくというかたちで、まちづくりの指針をきちっと計画し、実際の実行計画にしていきたいと思います。

・道本委員

本当に可愛らしいぷるぷるちゃんに誘われて読みやすくなりました。私たちひとりひとりの意見を柔軟に取り入れてできたことは非常にうれしく思います。この指針の作成に象徴されるように、市民からの意見を行政が吸い上げ、また、対面で立つのではなく一緒に並ぶような感じになっていけたらと思います。そのまちそのまちに必要なことを勇気をもって独自に行う、本当に、自慢できる紀の川市になっていけたらと思います。そのためにも、市民の声を吸い上げる、委員会とかじゃなく、神奈川県では市民がつくる政策調査会がありますが、市民がそこにいて意見を言う、それをクッションおいて、議会へ持っていくような、専門性のある人たちだけでやるのではない形ができたらと思っています。それと、イベントなどいろいろな活動が、簡単にすぐわかるようにしてほしい。今、ネット時代ですから、ホームページやNPO組織のボードを連携させて、リアルタイムに情報を得ることができる、また情報発信できるシステムをぜひ作っていただきたい。ぜひ、情報の発信の仕方を勉強したいと感じました。

・井口委員

私も同意見で、そういう場が欲しいと思います。産経新聞にホープスタディズ、希望学が掲載されています。地域の希望の再生に大事な3つの要素のひとつが、ローカルアイデンティティの再生です。果物王国は、まさにそのローカルアイデンティティだと思います。将来構想の共有が2番目、3番目にはネットワークの構築、そのキーワードが対話です。今週と先週、粉河高校の社会科の授業で粉河のまちづくりに商店街は必要かどうか、という対話を、生徒と商店街の人と賛成、反対に別れてやりました。最初、生徒からは、そんなに意見がでないと思っていたのですが、活発に反対意見がでて、私は賛成派にまわって議論しました。最後に、反対にまわった急先鋒の生徒さんから、本心は反対ではありません、まちがよくなって欲しいです。私達にできることがあればやりたいです、と。市民も生徒も、いっぱいそういう方がいると思

います。その意見を吸い上げる場がぜひ欲しい。対話して初めて、生徒達がそんなふうに見えることがわかり、非常にいい経験をさせてもらいました。市民と行政が対話できる場が欲しいなと思います。

・柳瀬委員

非常にいい会に参加させてもらったという喜びで一杯です。第1回目の会合のときに、社会教育の場での活動が協働と繋がると感じました。その後、いろいろ気づいたことを話し出しながら、それがどんどん指針に入っていったのが非常に嬉しかった。それから、今、アイデンティティとおっしゃいましたけれども、我々の紀の川市は果物王国なんだというプライド、誇りが非常に大事だとも感じました。それと、やっぱり検証していかないといけない、どんな成果があるの、どれだけ進んでるの、そういったことをやってほしいと思います。協働のまちづくりにどう反映し、繋がってるか、どんな形でもいいから、発表でも見学でもいいし、これも協働のまちづくりになるということがお互いにフィードバックできると思いました。

・恩賀委員

前回の指針案は、役所言葉とかで非常に難解な文章でしたが、今回は、ものすごいわかりやすい。それが一番の印象です。それから、これを市民にどう降ろしていくのが一番いいのかと思います。今、粉河では、中学校建設反対という運動がある、一方、市は移設するといっていますので、ギャップがあります。この指針も、うまく降ろしていかないと、変な形にならないかと感じています。

・真砂委員

ややもすると硬い行政の計画書で終わりがちなものが、人がたくさん関わることで、すごく温かみのあるものになり、紀の川市らしいものができてすごく良かったと思います。ただ、パブリックコメントが少なかったことがすごく残念でした。パブリックコメントは、自分の名前を明かして出すことに慣れていない方には抵抗がかなりあるようです。ただ、ホームページで公開しましたので、県外の友人知人にも見ていただきました。紀の川市出身の県外の方は、すごく喜んで紀の川市でこんなことやってる、ぷるぷる娘がすごく可愛いと好評でした。キャラクターを使うことで参加意識を高めることが大事ですねと返事が届きました。キャラクターで子供も興味を持ちましたが、小学校高学年ぐらいの子供が理解できるような構成だったらもっとよかったのにと意見をいただきました。あと、協働でやってるまちづくりとは具体的にどんなことなのかもっと知りたいという意見がありました。今後は、もう少し分かりやすい、例えばハンドブック的なものの作成が必要ではないかと思います。また、実際に市民活動をしていて協働の経験がある方と話しましたが、みなさん同じように紙だけに終わらせないで欲しいとたくさん言われました。実は、紀の川市に提案をして、私たちボランティアも協力するからと持ちかけたことが何度かあるが実を結ばなかった。もちろん、行政は時期的に仕事も決まっているし、お金も限りがあるので、タイミングが合わなかったと思いますが、市民の方のやってあげようという提案があるのに非常に残念だなと思います。これからは、市民の声をうまく吸い上げられるようなタイミングをこちらから提供していく、きちっとお金を付けて、対応する人を付けて、できたら各部署からこういうことを市民と協働したいと提案していただくようなぐらいにしないと、突発的に市民がなにか言っても行政も対応できないし、溝が深まることになりかねないので、体制づくりをぜひお願いしたいと思います。果物王国という誇りを持ってというお話がありましたけれども、行政の中で、協働を誇りを持ってやりなさい、この仕事は本当にこれからのまちづくりに必要な仕事です。自信を持ってやりなさいというような、体制づくりをぜひお願いしたいと思います。あともうひとつ、市民のみなさんにもわかるような大きなイベントを、紀の川市の活動団体や人が一同に集まってお祭りのようなイベントをしたら

どうでしょう。よろしく申し上げます。

・東中委員

先ほどからいろいろと絵に描いた餅と言われていますが、この資料が届く度に、区長を集めて勉強しています。自己満足に終わるのではというのがほとんどの意見です。どのように具体化するか、まず、決めてからすべきではないか、これは作るより難しいのではという話をしています。自治会が一番、行政と密着している団体だと思えます。自治会を通していろんな形、いろんな資料を、各地区で対話するとか、委員会的なものを作ったりして進めていったらどうかという話を聞きました。とにかく自己満足に終わるなと絵に書いた餅にするなと話がありました。

・金川会長

はい、ありがとうございます、やはり、みなさん共通しておっしゃられた、絵に描いた餅にしないために、ご意見をいっぱいいただいたと思います。それから、情報を共有してまわしていくべきだということも、みなさんの共通したご意見でした。子供にも読めるというのは確かにそうだと思います。大阪府の岬町は、今、すごく福祉教育に力を入れています。小学校と社会福祉協議会と、市や町が連携して、子供たちに福祉のこころをちゃんと教えて実感をもってもらうという取り組みを進めています。話す内容や文書を子供のレベルまで下げて、住民懇談会も子供向けに知らせています。私たちの住むまちは二十歳以上の人ばかりじゃないですね。あと、仕掛けづくりってすごく大切ですね。経験として、こういうふうな仕掛けづくりおもしろいじゃないかなとかありますか。

・島委員

和歌山市は、大々的なイベントではありませんが、指針ができたときに、シンポジウムを開催しましたね。市長さんもシンポジストにでられて、和歌山大学の堀内先生とか、そのときは日本NPOセンターの理事長も全国的な視野から協働を語っていただくということでシンポジストにお招きして、官民一緒につくった指針をお披露目しようと、まず、キックオフのような誰でも参加できるシンポジウムを取り組みました。まずは、知らせるという意味ではそういう企画をするのも、あんまり硬くならず、楽しく、地域の団体の出会いの場とかというかたちとつなげて企画をするのもいいんじゃないかなと思います。

・金川会長

ぜひ、そういったアイデアもいただけたらと思います。人・物・金・部署をつけてほしい。それは声を大にして言いたいと思いますね。

・中坂委員

各自治区には年に1回総会があります。4月まわると全ての区で行います。そこへ市がでて出前講座をする。人口7万人いて職員が700人なら、ひとり100人を受け持つ、100人という30軒です。やっぱり対話することが大事です。紀の川市は老人が多いです。老人がホームページをみるのは無理だと思います。区長とタイアップしながらやっていくことで、アイデアもでてくると思います。4月にできなかつたら、次の機会でもいい、普及していく必要があると思います。

・事務局（東部長）

昨年からは出前講座ということで、長計や防災をテーマに出向いて実施しています。そのメニューにこれも付け加えることができると思います。庁内的な組織の位置づけについて、現在は

政策調整課で進めていますが、やっぱり主管課をつくり広げていかなければならないと思います。指針は、最終的に庁議で決定しますので、22年4月以降に進めていきたいと思います。決して、絵に描いた餅にはしたくないという思いは十分もっています。また、長計で、協働の大切さをうたっています。一昨年、市政懇談会で、17箇所まわりました。今度は、もう少し小さい規模で、ひざをつきあわせてやっていきたいと市長が所信を表明しております。そういうことも含めながら今後、進めていきたいと思います。

・金川会長

よろしくをお願いします。ぜひ期待に応えていただきたいと思います。

・道本委員

これは、みなさん、市民の一軒一軒に配られるのですか。

・事務局（長谷川主幹）

配布までは考えておりません。ホームページに公開し、ホームページをご覧になれない方には、ご要望により配布を考えております。

・各委員

配ると相当諸経費がいります。一軒一軒だと相当な費用がかかります。枚数も多いし、コンパクト版にして、A3見開きぐらいにしてはどうでしょうか。

・梁瀬委員

それぞれの地域で4月に区長の集まる会があります。区長にこの冊子を渡して、たとえ10分でもPRすれば、一軒一軒くばらなくてもいいと思います。

・事務局（東部長）

今、考えているのはホームページだけではなく、行政広報誌にダイジェスト版みたいなかたちで掲載したいと思います。できた指針は、まず、職員に配ります。いきなり、市民の方ではなく、まず、庁内的に職員に知らしめる、そこから足がかりにしていきたいと考えています。

・道本委員

少なくとも、新聞ですね、マスコミュニケーションを使いましょう。紀の川市からのニュースがでて、テレビ和歌山とかでアピールしましょう。

・井口委員

和歌山市役所のなかに、まちづくりなんとか課ってありますよね。

・島委員

NPOボランティア推進課です。

・井口委員

通産省からどなたか、市のほうにこられています。

・事務局（東部長）

今、全国的に、協働課とか、市民まちづくり課とか、最近、特に増えています。当市では、地域振興部の地域振興課がある程度所管していかざるをえないと思います。NPOなり、まち

づくりの関係で、直接、市民との対話が多いところです。それと、極力、マスコミを活用していきたいと思います。

・金川会長

だいたい、これくらいですかね。ご意見、本当にありがとうございます。それでは事務局にお返しいたします。

事務局よりお礼のあいさつ

・事務局（竹中次長）

ありがとうございました。今日、予定しておりました懇話会の内容については終了となります。ご協力ありがとうございました。本日の意見をもとに、事務局で指針案を作成し、最終的に本部会議のほうに指針案を提出、報告したいと思います。そして、本部会議で協議のうえ、庁議というものがございまして、庁議のなかで協働によるまちづくりの指針を決定していきたいと考えています。指針につきましては、いろいろと先ほどからご意見いただきましたように、ホームページ、広報、それから各区長会等々を通じて周知をしていきたいと考えておりますのでよろしくお願ひいたします。

それでは、最後の懇話会ということですので、東中副会長よりご挨拶をよろしくお願ひいたします

・東中副会長

みなさま大変ご苦労様でした。本日は最終回ということで、各方面でご活躍をされているみなさん、貴重な時間をさいていただきまして、おかげさまでりっぱな指針づくりができました。くどいようですが事務局の方にお願ひしたいのは、絵に描いた餅にならないようにしていただきたいと思いますのでよろしくお願ひします。どうもご苦労様でした。

・事務局（竹中次長）

ありがとうございました。昨年の10月から約5ヶ月間にわたりまして、熱心なご協力をたまわり、大変ありがとうございます。金川会長には、議長としてスムーズな進行ととりまとめをいただきました。また、島委員さんには、職員、作業部会から進行役として、われわれ職員をご指導いただきました。お礼を申し上げます。また、区長会を代表して、各5人の委員さんには、市民の立場でご意見いただきました。公募の委員さんには、それぞれ実践的な活動をされている立場から、いろいろご意見を頂戴いたしました。大変ありがとうございます。この指針をみちしるべとして、協働によるまちづくりを推進する、これが我々のスタートと考えております。いろんなところで、また、みなさま方にご協力をいただいて、ご助言をいただければありがたいと思います。この懇話会は、これで解散ということになりますが、引き続きご協力をよろしくお願ひしたいと思います。いろいろとありがとうございました。

・金川会長

では、終了させていただきます。本当にありがとうございました。お疲れ様でした。

(5) 閉会

個人、地域が特定できる部分は割愛